

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大 阪 府
-------	-------

I 学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	大 阪 府 阪 南 市 立 箱 作 小 学 校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	59	60	66	65	55	78	5	388	

II 研究の概要

1. 研究主題

<p>「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」 一人一人が意欲的に学び、筋道を立てて考える能力の育成</p>
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

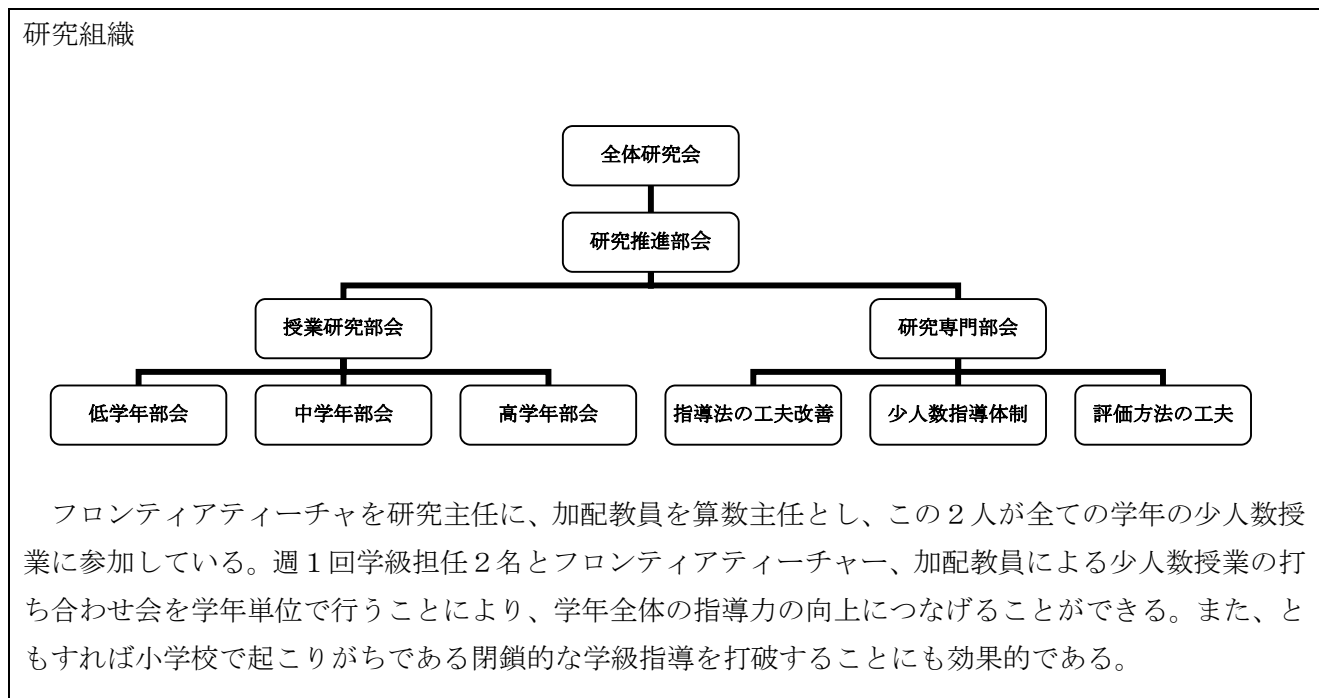
<p>3・4・5・6年算数</p> <p>学校としてフロンティア校の指定を受ける以前からの研究実績がある教科である。また、対象学年は理解の状況、関心・意欲・態度に差が拡大していく学年である。</p> <p>1・2年国語</p> <p>全ての学習に通じる「聞く」「話す」の基礎を培うのに大切な教科・学年である。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数編成による授業形態や効果的な指導法の研究</li> <li>・到達度や評価のあり方についての研究</li> <li>・互いの思いや考えを述べ合い、共に深め合う授業の研究</li> </ul> </li> <li>○ 研究の見通し                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(低学年) 具体的な操作活動を通して、一人一人が楽しく生き生きと取り組むにはどうすればよいか。</li> <li>(中学年) 一人一人が問題意識を持ち、自分なりに筋道を立て、よりよい考え方を求めるためにはどうすればよいか。</li> <li>(高学年) 一人一人が見通しを持ち、問題解決にあたるようにするためにはどうすればよいか。</li> </ul> </li> <li>○ 研究の内容・方法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>過去 2 年間の少人数授業の効果をみるために算数の学力実態調査を実施したところ、どの学年も「表現・処理」においては到達度を上回っているが、「数学的な考え方」「関心・意欲・態</li> </ul> </li> </ul>
-----------	--



### (3) 研究推進体制



### III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

##### ● 指導内容

- ・基礎・基本の学習（問題解決型学習をもとにした無作為分割グループ）から発展的・補充的学習（個人差に応じる習熟度別グループ）、興味・関心に応じた学習（個性を生かす課題選択別グループ）といった単元指導計画を協力体制を組みながら研究することができた。
- ・特に、発展的・補充的学習や課題選択別学習の教材作りに取り組み、子どもの実態に応じた教材を開発することができた。

##### ● 学習課題・指導方法の工夫

- ・子どもの興味深く取り組める課題を工夫したので、多様な考え方を導くことができた。
- ・国語科においては、授業の中での取り組みを「発表のいずみ」の時間で生かし、表現力を高め、伝え合う気風を育てることができた。

##### ● 子どもの学習状況の把握

- ・指導計画に沿って目標に照らしながら評価できるようになり、個に応じた支援ができやすくなった。

#### 2. 今後の課題

- ・興味・関心に応じた「課題別選択授業」や習熟度に応じた「発展的・補充的課題」など、子どもの実態に応じた教材の開発が必要になってきている。
- ・評価目標に達していなくても学習意欲のある子ども、学習意欲の乏しい子どもへの個別指導をより充実させ、家庭学習の支援も含めた指導を考える必要がある。

#### IV 学力等把握のための学校としての取り組み

平成15年度末には全児童を対象に国語と算数の学力実態調査を行い、算数では「数学的な考え方」「関心・意欲・態度」が昨年度末に実施したものに照らし合わせて、どのような変容があったのかを比較・検討する。また国語では、本年度あらゆる教科・領域で取り組んだ「聞く」「話す」の力がどのようなレベルであるかを把握し、来年度への課題設定につなげていきたい。

さらに、「学習に対する意欲調査」を実施し「進んで手をあげる」などのポイントを昨年末のものと同様に、昨年度の調査で問題となった積極的な授業参加の態度に向上があったのかを数字として捉えたい。

#### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

阪南市教育委員会主催「指導法の工夫改善研修会」を兼ねた中間発表会

日時 平成16年1月29日(木) 午後1時30分～午後4時50分

場所 (全体会) 阪南市立箱作小学校家庭科室  
(授業公開教室) 3年1組、3年2組、算数ルーム、オープンルーム

教科・単元 3年算数「かけ算(3)」

課題選択別4分割・かけ算のふしぎにチャレンジ ・ひっ算の楽しさにチャレンジ  
・ひっ算の仕組みにチャレンジ ・かけ算の考え方にチャレンジ

参加者 阪南市立小・中学校教員(校長を含む)36人

講師 大阪府教育委員会教育事務所 山下吉信 指導主事  
熊取町教育委員会 吉田由美 指導主事

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無